

令和3年度 第2回学校運営協議会議事録

- 実施日時：令和3年10月30日 9時30分～11時30分
- 開催方法：対面式会議（オンラインによる参加ご希望の委員がいなかったため）
- 開催場所：府立淀川清流高等学校 校長室
- 出席者：委員4名、事務局（校長、事務長、教頭）

I. 会長あいさつ

会長が欠席のため、副会長から会議開始の挨拶

II. 校長あいさつ

III. 協議事項（事務局より）

① 令和3年度学校経営計画進捗状況について

- ・評価指標の授業アンケートは7月と12月に、学校教育自己診断は12月に実施
- ・現在の進捗状況については、7月実施の授業アンケートをもとに説明する

（1）確かな学力を育成する

○第1回授業アンケート結果について

- ・質問項目について … 経年変化を見るため、質問事項は変えていない
- ・結果について … 令和元年度以降3か年の第1回授業アンケート結果を比較
⇒全般的に、昨年より数値の上昇がみられる
前年同期比で、特に社会科、理科の評価が上がっている
- ・第1回の振り返りは、相次ぐ臨時休業により、十分な機会を確保できなかった
- ・第2回実施の際には、各教科等で振り返りが行えるよう検討

○基礎力診断テストについて

- ・長期休み明けに実施、学力の向上が見られた者は表彰を行い、動機付けのひとつになるよう試みている（10月28日に1年生を対象として体育館にて表彰を実施）
- ・公開授業は11月2日（10年目経験者による公開授業含む）・5日（初任者による公開授業を含む）を予定

○ICTを活用した授業展開について

- ・環境が整わないこともあり、残念ながら他校に比べて進んでいるとは言い難い
- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症による相次ぐ臨時休業を経験したため、早急にICT機器を駆使した生徒の学習支援を進める必要性も痛感している
- ・現在はGoogleClassroomを活用した課題の配信や提出、点検・採点、質疑応答や生徒の健康観察等に対応できるようにしている
- ・臨時休業中には、実際に就職希望の生徒に対して履歴書指導や面接指導等に活用
- ・より広域な活用に向け、校内でPTを立ち上げ、今後の学習支援につなげる方法を検討・試行しているところ

○進学講習について

- ・学年及び進路指導部が中心となって計画、随時実施中
- ・英検受験者や情報関連の資格受験者対象の講習も実施

(2) 進路を実現するため、系統的なキャリア教育を推進する

○キャリア教育について

- ・ST（「清流タイム」＝総合的な学習の時間）、「産業社会と人間」「人生設計学」と教養の授業で実践
- ・令和3年3月に淀川清流初の卒業生となる1期生を送り出し、より一層3年間のカリキュラムを鑑みた系統的な教育計画を立てる必要性を感じている

(3) 生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な生徒指導を推進する

○基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成

- ・登校遅刻は、減少している
- ・特に1年生では1000件を下回り、丁寧な指導の成果だと考えている
- ・一方、欠席は、増加している
- ・特に2年生では倍増以上、原因究明と共に、早急に改善方法の検討を進める
- ・エンパワメントスクール4年めを迎え、生徒にも変化が見られるため、遅刻欠席指導を含め、生徒指導全般において改善の余地がある点は見直しを図る
- ・学警連携を行い、11月8日～12日で通学時のマナー指導及び交通安全指導を実施予定

○生徒理解と中退防止の取組み

- ・例年どおり、発達上の特性や厳しい生活背景を持つ生徒が多数入学してきている
- ・入学前に本人及び保護者の同意を得て中学校からの聞き取りを実施、校内共有はもちろん、中高連絡会や、近隣中学校の訪問等、引き続き中高連携をすすめている
- ・入学後は教育相談連絡会、支援委員会を通して、学習や家庭・生活状況に支援の必要な生徒の情報を交換、必要に応じてSC・SSWにつなぎ、校外の機関連携を行うとともに、特に学校全体での理解が必要なケースは、事例検討会を持ち精神科医師の助言を頂くなど、生徒支援の論議を実施
- ・今年度も引き続き「居場所カフェ」を開設、生徒の居場所として機能させている
- ・昼休みは教員による「居場所カフェ」を開設、お弁当を食べたり、休憩したりする生徒を迎えている
- ・こうした取り組みにもかかわらず、9月末で11名（昨年度8名）が転退学

- ・頑張っただけ進級したものの、学校に定着しきれなかった2年生、1年生で本校に入学したものの、なじめなかったことなどが要因と推測
- ・引き続き、今後も取り組みを進めていきたい

○地域連携

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今年度は地域の清掃活動が未実施
- ・体育祭も、保護者をはじめ外部からのご来校をお断りした
- ・広報活動は、中学校向け説明会の参加、出前授業の実施等、積極的に進めている
- ・7月に第1回オープンスクール開催、本日午後第2回を実施
(申込82件、昨年107件)

(4) 自尊感情、自己有用感を育む教育を推進する

○人権教育・国際理解教育の取り組み

- ・人権教育推進委員長と国際理解教育担当が、学年と連携して取り組みを進めている
- ・人権教育は、いじめやホームレス問題、コミュニケーション力の向上（アサーショントレーニング、アンガーマネジメント）や、就職差別等、広範囲にわたり生徒に考えさせている
- ・1年生は、11月30日に外部講師を招き、人権教育を実施する予定
- ・国際理解教育は、今年度は留学生交流会の実施ができないが、11月9日にJICAから講師を招き、ご講演をいただく予定
- ・生徒指導案件における「暴力/ネット/人間関係のトラブルに関する事案」は、本年度3件（暴力（生徒間トラブル）3件、昨年度10件）
- ・その他指導事案では、SNSによる生徒間のいざこざがここ数年増加傾向にある

○特別活動、生徒会活動

- ・生徒の居場所と出番を用意することで、集団や学校への帰属意識を高めている
- ・部活動加入率は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、体験入部等の行事ができなかった影響か、思うように伸びていない
- ・7月21日現在31.6%【昨年度7月6日現在38.0%】と目標値（40%）には及んでいない
- ・1年生の加入率の伸び悩みが数字にも表れているものと考えられる
- ・体育祭では、度重なる臨時休業の影響で「応援団」活動ができなかった
- ・現在は文化祭に向けて各クラスで出し物を決め、準備に取り掛かっているところ

(5) 教職員の資質向上と校務の効率化を推進する

- ・特に今年度は開校4年めの節目を迎え、ここで再度めざす学校像や育みたい生徒の力を確認、教員の発案による学校改革を目的とした研修を継続して行っている
- ・教員の授業力向上では、10年目経験者研修の一環で、11月2日に公開授業予定
- ・初任者研修の一環による公開授業は11月5日予定
- ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、行事予定の変更をせざるを得ず、なかなか思うように進まない点もあるが、できることを模索している
- ・教員の4月から9月までの超過勤務平均時間は24.6時間（昨年度29.4時間、目標30時間以下）

- ・80時間超過数はのべ4人（昨年度10人）
- ・校務分や2室制（教育支援室（首席①、教務、進路指導、総務）と生活支援室（首席②、生徒指導、特別活動、保健相談））は、次年度に向けて更なる改善を予定

② 学校教育自己診断アンケートについて

- ・12月に実施予定
- ・経年変化を見るために、大幅な変更はしていないが、教員対象のアンケートは、校長による学校運営の評価関する項目を大幅に増やす予定
- ・また、自由記述欄を設ける予定
- ・教員対象のアンケートはGoogleClassroomを利用して実施する予定であり、集計作業等の業務改善が見込まれている

IV. 報告事項（事務局より）

① 令和4年度使用教科書一覧表について

- ・次年度1年生より新カリキュラム

② 校則について

- ・令和3年度入学生から大幅な変更は考えていない

《全体を通してのご意見・ご質問等》

（委員）

クラブ活動の加入率についてだが、他の学校に比べると本校の加入率はいかがなものか。

（事務局）

その点に関しては、学校の実態による。

確かに北淀高校時代と比べると加入率は低いように思う。

広いグラウンドはあるが、本校には自主的に動きにくい生徒も多いし、また教員も多忙化により付き添いにくいところもある。

教育庁が主体となって取り組んでいるクラブ活動における中高連携事業も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により頓挫してしまっている。

（委員）

本校では外部指導員の活用はしているのか。

（事務局）

お越しいただいている。（華茶道部、男子バスケットボール部）

ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりクラブ活動ができていない時期もあったし、そもそも部員が少ないこともあり、活動自体ができていない部もあり、なかなか有効な活用ができているとは言い難い状況かもしれない。

(委員)

本校にはどのようなクラブがあるのか。

(事務局)

運動部が13団体、文化部が17団体ある。

本日は中学生向けのオープンキャンパスが午後から予定されているが、本来体験入部を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点からクラブ活動紹介及び説明のみに切り替えて実施する予定としている。

(委員)

教員は必ず顧問になっているものなのか。

(事務局)

全員が何らかのクラブ顧問になっている。

私の感覚では、本校の教員はよく付き添っていると思われる。

私自身も休日の試合等はできる限り見て回り、本校HPに随時ブログをアップしてクラブ紹介につなげている。

(委員)

「分かる授業」とはなにか。

(事務局)

ひとつはモジュール授業、1年次は教科書に拘らず、ベーシックな学習をしている（ESは全てその形態）。

必修修は2年次から開始している。

2年次から一気に内容も増え、中身が濃くなるので、2年次から学習面でつまずいてしまう生徒も多いように思う。

(委員)

遅刻・欠席について、数字の算出の仕方として、繰り返し遅刻や欠席をする生徒の数も数えていくと、より詳細な分析もでき、数字の活用の幅も広がるのではないかと思う。

(委員)

授業アンケートの結果について、各個人の分析をもっと頑張ってもらいたい。

教員の意識レベルを上げ、それを生徒の習熟度の向上にも繋げてもらいたい。

(委員)

SNSによるトラブルは具体的に何件くらい生起しているのか。

(事務局)

私のところにまで報告が届いているのは3件。

安易に画像や動画をアップしてしまうことが多いと聞いている。

(委員)

web研修にSNSの活用方法を取り入れ、生徒へも指導するようにしてもらいたい。
たったひとつの軽はずみな行動が人生に大きな影響を及ぼすこともあるということを理解してもらいたい。
「人生」という授業があると聞いているので、そこで実施してもよいのではないか。

(委員)

さらに、人権教育の中でも取り組めばよいのではないか。

(事務局)

情報の授業においても、「情報モラル」については一定取り扱っている。
本校としての人権教育のバランスを考慮して、どのような時期にどのような内容で取り入れていくか等を検討していく。

(委員)

地域連携について、近隣中学校との連携はできているのか。
OBがたくさんいるので、うまく使って連携を図るのもよいと思う。
町内会を学校に呼ぶための工夫があればよいかと思う。
区振興協会、東淀川区消防協会等、横のつながりを使って、本校はグラウンドがとても良いので、活用できれば良いと思う。

(事務局)

グラウンド開放との兼ね合いも検討しなければならない。
行政財産の管理問題が出てくる。

(委員)

学校開放日を学校から提示するのはどうか。
ここは公平性が担保されているので、部活動との兼ね合い等で申請をしないとなかなか通らないのではないかと思う。
部活動でOBとの交流をする、学校が主体で大会を開催してそこにOBが参加しているという形態をとるのが良いと思う。

(事務局)

本校の生徒が関連するような何かを準備できればと思う。
実は以前、近隣の保育園がポスター掲示の依頼をして来られたが、ポスター1枚の掲示にもいろいろと規則があり、なかなか張り出すことができなかったという経験もある。

(委員)

OBの中に、消防署長等がいるが、ご退職前に人権教育等でご講演をいただくことが可能である。
OBが協力できる体制はある（電気関係社長、警察署長等）。

いつでもお声掛けください。
OBをうまく活用していただければと思う。

(事務局)

本校は就職する生徒が多い。
就職することのイメージ作りのためにも、OBやいろいろなお立場の方の話を聞くことができる機会は貴重だし、作っていきたい。
そこでご協力をいただくことができれば大変ありがたい。
どの学年で、こういったタイミングで実施ができるかは今後検討していきたい。

(委員)

ご紹介した3名は就職の面からも、人権教育の面からも、どのようなお話をすることもできる。
いつでもお声掛けください。

(委員)

二室制とは何か。

(事務局)

教務部・進路指導部・総務部 / 生徒指導部・特別活動部・保険相談部 をそれぞれ室として括り、各1名ずつ首席を置いている。
ただし、連携がうまく図れていなかったり、情報がうまく共有できていなかったりするのが現状。
首席にも積極的に中に入って運営に参加していただくことも検討している。

(委員)

高校生の離職率、3年で辞める、という問題があるので、離職率についても数字を追っていただきたい。
大人扱いの社会になっているので、ケータイでなんでもやりとりをしていた高校時代からいきなりパソコンを使用することが求められる。
できないことが元で辞めてしまうという話も聞いている。そのような点も視野に入れて、生徒一人ひとりのニーズに合った、適正を踏まえた就職指導を実施してほしい。

(事務局)

企業に入れて終わり、ではなく、何ができるかという点に重点を置いて教育していくことも必要。
企業さんも入ってからの教育にお困りということを聞いている。
「人生設計学」等の授業展開の見直しも含めて、本校における教育カリキュラムスケジュール等を学校全体で議論する時期に来ているように考えている。
そのようなことを踏まえて今年度教員研修を行っている。

教員から主体的に意見を出し合い、納得感を持って生徒を育て、学校を作り上げることを目標としている。

教員間の情報交換も希薄になってきている。

ただし、研修を終えてみると意外と意見は出てくるし、理解も深まっているような印象を受けているので、引き続き頑張っていきたい。

ただし、コロナ休校や観点別の検討等、課題が山積みの中で次年度に引き継がなければならないのが現状でもある。

二室制についても教員定数の減少によるものである。

ただし、情報共有がうまくいかず、学校全体の動きを鈍らせてしまっているきらいもある。

本校は学年主体であり、学年ごとに臨機応変に動く風習があり、それぞれの情報がうまく共有・集約されていないのが現状なので、二室制を廃止することも検討している。

いわゆる「運営委員会」で各分掌長や学年主任が顔を突き合わせて議論する場を設ける予定。

一方で生徒が大変落ち着いてきている。

基礎学力診断テストの表彰式でも感じたが、聞く姿勢がかなりよくなった。

球技大会の取り組み姿勢も前向きになっている。

昔からいる教員も生徒の変化を実感しているところ。

この辺りで次のステップにすすみたいと考えているところ。

(委員)

学校教育自己診断について、教員対象のアンケート項目を増やしたのは素晴らしい。

(委員)

保護者アンケートの回収率はあまりよくないのではないか。

活用できそうなアプリがある。

便利なアプリなので利用を検討してみたいか。

回収率も上がるかと思われる。

このご時世、紙でやりとりをすることに抵抗を感じる方もいる。

スマホを持っている方も多いので、有効ではないかと思う。

かなり労力を減らすことができると思う。

(委員)

学校メールから発信し、そこから学校教育自己診断につなげることができる。

登録をしていない人には紙でお配りする等の二次手段を用いればよいのではないか。

例えば中学校では「懇談までにご提出ください」としておいて、提出がなかった場合は懇談に来てもらって紙でご提出いただく等もしている。

(委員)

生徒手帳について、連絡・諸届欄はもう少し少なくてよいのではないか。

(委員)

生徒手帳はきちんと携帯されているか。

(事務局)

確認はできていない。

生徒証は別途小さなものがある。

こちらは大事にしてもらっているようである。

(委員)

来年度から新カリキュラムということであるが、オンライン授業の推進のタイミングでもあるのではないかと。

中学校ではオンライン（Teams）の活用が進んでいる。

高校でも積極的に取り組んでもらいたい。

(事務局)

高校の現状は中学校よりは遅れている。

実際に他校に聞いてもなかなか進んでいないという声も聞く。

本校生徒の現状を考えると、どこまでできるのかが悩ましいところである。

教育庁も3年計画で進めているところ。

本校でもPTを作って得意な教員を中心に取り組みを進めているところであるが、教員間にも技術の差異があるし、生徒になかなかなじまない点もあるのが本音。

一度やっても、常時しないとなかなか定着せず、進みにくいという点もある。

(委員)

生徒はスマホを使うこともできるのではないかと。

(委員)

スマホでも同じように使用することもできる。

ただし、回線の弱さの問題で映像が途切れてしまうこともあるが、推進できる教員がいて、生徒にも教授することができれば活用は可能。

朝のホームルームで活用している事例や、大勢が一同に会することができない行事等で活用している事例もある。

学校になかなか来ることができない生徒や実際に学校に登校して学習を重ねた上で卒業するのが難しい生徒について、オンラインを駆使しながらいかにエンパワーメントをしてももらえるかが期待されているところかと思う。

エンパワーメントスクールとしての活躍を期待している。

地域住民は本校生の変化を見ている。

すごくよくなってきているという実感がある。

できるが故にさらに期待を持ってしまおうのだが、オンラインを活用した学習支援・生徒支援についても力を入れてほしい。

(委員)

生徒の変化については私も実感している。

期待しているところである。

※学校経営計画の進捗状況、学校教育自己診断、令和4年度使用教科書、校則について了承をいただいた。

V. その他（事務局より）

本年度の学校運営協議会日程について

第3回は令和4年1月29日（土） 午前9時30分～午前11時00分まで（予定）

上記の日程を確認した。